

令和5年度 第1回舞鶴市図書館協議会 記録(抄録)

日時：令和5年11月29日(水)

午後1時30分～3時

会場：舞鶴市立東図書館研修室

<議事>

(1) 開会

(2) 図書館協議会 議事

議題① 令和4年度の事業実績について

議題② 令和5年度の事業進捗状況について

議題③ 舞鶴市図書館基本計画に基づく図書館の再編について

議題④ その他

今後の図書館協議会開催計画について

(3) 閉会

<会議録>

(1) 開会 (13時30分)

(2) 図書館協議会 議事

議題①～④について事務局から説明

*質問や意見は以下のとおり

① 令和4年度の事業実績について

- ・年報のレファレンスの件数や内容等をもっと詳しく載せるべきではないか。
- ・レファレンスは課題解決のメイン業務である。
- ・事業については、主催、共催、後援、協賛、参画と協働は、定義をはっきりさせて、整理をして掲載するようにしてもらいたい。
- ・年報では経年変化のグラフをもっと載せることが望ましい。
- ・コロナで減った利用が令和4年度には回復するはずだが戻っていないので、分析が必要だ。
- ・レファレンスも、もっと詳しく分析することで、利用増につながると思う。

② 令和5年度の事業進捗状況について

- ・いろいろなことに挑戦し実行されており、少しずつ前に進んでいると思う。

- ・令和4年度の実績報告、令和5年度の図書館計画を出すタイミングが今日になったことについて、どうなのかと思う。年度初めに協議会を開催して、報告を受けて協議していくべきではないか。年間スケジュールをしっかりと決めてほしい。
- ・図書館の利用率が数%の現状から変えていかなければいけない。何%までを目指すのか、目標をはっきり打ち出してはどうか。
- ・今年度の進捗状況を聞いて、よく動いておられ、また、いろいろな催しをされているのが分かった。
- ・各事業にどのくらい参加があったのか、どのような感想があったのかが分かると思う。
- ・司書が発表できる取り組みがよい。参加者が少なくても賛同する人がいるはずなので、これからも頑張ってもらいたい。
- ・事業について、庁内での連携が見える化され、より充実してきていることがわかり、うれしく思う。これまでのよさを継続しつつ、中央館へつながるとよい。
- ・学校支援は今まで以上に取り組んでいる。
- ・電子図書館は、学校の負担を減らして利用できるようになった。
- ・早くに説明会などを実施した学校はよく取り組んでいる。
- ・一方で低学年は紙ベースの資料も大事で、先生が計画を立てながら実施しているようだ。

③ 舞鶴市図書館基本計画に基づく図書館の再編について

- ・ワークショップは、10代から80代まで参加者の年齢層が多様であり、男女比がほぼ同じなどバランスが取れていた。
- ・天気も良く、進行も上手。和気あいあいと、とてもいいスタートが切れた。
- ・参加者は他の町の図書館のこともよくご存知で、踏み込んだ議論ができており、これからは楽しみだ。
- ・ワークショップがいいスタートが切れたということだが、参加者は図書館利用者が多かったのか。また、参加者の図書館利用状況はどうか。

→ 事務局より

利用者も多数参加されていたようだが、そうでない方もおられたようだ。多くの方が関心を寄せられ、参加されていたと思う。

- ・今後、ワークショップ参加者に図書館に足を運んでいただいて、いい面や悪い面を見てもらい、司書の取り組みも知ってもらおうなど、表面上では見えない部分も共有して、盛り上がっていくといいと思う。
- ・ワークショップには、不安と期待で参加したが、ファシリテーターが素晴らし

く、舞鶴市の人材に対する情報収集力の進化を感じた。図書館の変化に大きな期待を寄せる。

- ・ワークショップで出た意見は SNS などでも早く発信できたらいい。早い発信をした方が次につながり、議論も深まると思う。
- ・ワークショップの中で分館についても話し合っではどうか。分館は狭く、職員が常駐せずに、その施設の人が兼務するようになると聞いているが、はじめのうちは職員が常駐して、みんなが慣れていけるように考えてはどうか。

→ 事務局より

ワークショップでは第3回のテーマを、「全市域サービス」としており、分館についてのご意見も伺う場と考えている。なお、分館の職員配置については、中央図書館の職員を一時的に配置することも含め、今後、考えていきたい。

- ・市民フォーラムでは、泣きそうになって話している人もおられたが、意見を発表する場がない人に寄り添うことはできないのか。私たちだけ突き進んでいいのかと思った。
- ・図書館の再編は建物ではなく情報提供するというシステムであるということを知ってほしい。矛盾した意見やニーズが出てくるのはワークショップでは当然で、矛盾した話を折り合わせていけるとよい。
- ・現在の分館は、図書室と本来の分館の間ぐらいの規模で歯がゆい思いがある。完全な図書館の組織になっていないと感じており、こうした行政内部のしくみの問題も解決していかなければならないと思う。
- ・現在の東西図書館をそのままにメンテナンスをして使う場合、長寿命化に多額の費用がかかることは認識しておきたい。
- ・財源確保については、補助金、起債と、非常に効率的に知恵を働かされたと思う。

→ 事務局より

基本設計の補助金は採択済。詳細設計、工事への補助金は、まだ要望段階で、決定したものではないが、市長はじめ市をあげて要望をしているところである。

(3) 閉会 (15時)